

2020年度後期 講義概要

授業科目名	血液と造血臓器系
主担当教員名	安藤 朗
配当学年 等	3年
学習目標	血液・造血臓器系疾患を有する患者のProblemsを抽出・統合整理し、そのProblem Solvingを行うことができる。 さらに血液・造血器疾患に関わる輸血療法と血液製剤の適正使用、輸血副作用と対処方法、造血幹細胞移植をはじめとした細胞治療について述べる事ができる。同時に血液・造血器疾患の病理・病理組織診断について述べる事ができる。
授業概要	系別講義ならびに特別講義を通じて、医学における教育プログラム研究・開発事業委員会の策定した「医学教育モデル・コア・カリキュラム」が要求する血液・造血器・リンパ系の正常構造と機能、病態、診断、治療に関する必須知識を問題解決型手法を実践する中で習得し、さらに同領域の課題探求型学習への意欲を高めることを目指す。 このため、講義では上述カリキュラムの求める血液・造血器領域のコアを概説し、臨床的病態理解に必要な血液・造血器系の構造と機能の整理を行った後、徴候・病態を軸においた血液・造血器疾患の講義を展開する。血液・造血器疾患に伴う全身・他臓器病態、逆に全身・他臓器疾患の病態・治療に伴って生じる血液・造血器病態がみられる。このような観点から、講義は血液内科-（内科学講座）・歯科口腔外科学講座・附属病院輸血部が有機的に連携して行う。さらに、血液・造血器疾患のProblem Solvingには病理学-（病理診断）が重要な位置を占めることから2コマを用いて造血器疾患の病理学的診断について講義を行う。

授業内容

年月日(曜)	時限	担当教員	項目	内容	課題有・無	授業形式 (原則、対面。)	ビデオ撮影
令和2年12月11日(金)	1時限	木藤 克之	血液疾患の症候、診察と検査、血液細胞の形態学	血液疾患の症候と診察・検査の進め方から診断まで	無	対面	可
令和2年12月11日(金)	2時限	岩佐 磨佐紀	造血器悪性疾患1	骨髄腫と類縁疾患	無	対面	可
令和2年12月11日(金)	3時限	谷脇 雅史	特別講義	多発性骨髄腫の細胞遺伝学と分子標的療法	無	遠隔	可
令和2年12月11日(金)	4時限	河原 真大	造血のしくみと血液細胞の生理・生化学的機能	造血幹細胞の特性と分化増殖のしくみ、血球の生体内での機能について	無	対面	可
令和2年12月14日(月)	1時限	木藤 克之	造血器悪性疾患2	悪性リンパ腫	無	対面	可
令和2年12月14日(月)	2時限	藤城 綾	造血器疾患：貧血1	貧血の分類と診断、貧血各種1	無	対面	可
令和2年12月14日(月)	3時限	西村 理恵	治療学：輸血1	血液製剤と適正使用	無	対面	可
令和2年12月14日(月)	4時限	藤城 綾	造血器疾患：貧血2	貧血の分類と診断、貧血各種2	無	対面	可
令和2年12月15日(火)	1時限	杉原 洋行	病理解剖症例：非腫瘍性疾患	造血器疾患1	無	対面	可
令和2年12月15日(火)	2時限	竹村 しづき	病理解剖症例：腫瘍性疾患	造血器疾患2	無	対面	可
令和2年12月15日(火)	3時限	河原 真大	治療学：化学療法一般	化学療法の基礎から応用まで	無	対面	可
令和2年12月15日(火)	4時限	安藤 朗	造血器疾患：貧血3	貧血の分類と診断：PNHなど	無	対面	可
令和2年12月16日(水)	1時限	岩佐 磨佐紀	止血と血栓1：凝固1	血小板機能 全ての凝固能 総論	無	対面	可
令和2年12月16日(水)	2時限	南口 仁志	治療学：輸血2	血液型について	無	対面	可
令和2年12月16日(水)	3時限	南口 仁志	治療学：輸血3	輸血治療の実際について	無	対面	可
令和2年12月16日(水)	4時限	前川 平	特別講義	造血幹細胞と再生医学	無	遠隔	不可
令和2年12月16日(水)	5時限	岩佐 磨佐紀	止血と血栓1：凝固1	血小板及び凝固系疾患 各論	無	対面	可
令和2年12月17日(木)	1時限	河原 真大	造血器悪性疾患3	急性白血病の診断と治療	無	対面	可
令和2年12月17日(木)	2時限	河原 真大	造血器悪性疾患4	慢性白血病の診断と治療	無	対面	可
令和2年12月17日(木)	3時限	越沼 伸也	造血器疾患の口腔病態	血液疾患の口腔病態と抜歯術周術期管理	無	対面	可
令和2年12月17日(木)	4時限	南口 仁志	治療学：造血幹細胞移植	造血幹細胞移植療法概論、新規薬剤の動向、化学療法概論	無	対面	可
令和2年12月18日(金)	1時限	小泉 祐介	造血器疾患とウイルス1	HIV-1	無	対面	不可
令和2年12月18日(金)	2時限	小泉 祐介	造血器疾患とウイルス2	ATLL、HTLV-1関連症候群、EBV関連疾患診断と治療	無	対面	不可
令和2年12月18日(金)	3時限	木藤 克之	造血器悪性疾患5	骨髄異形成症候群、骨髄増殖性疾患など	無	対面	可
令和2年12月18日(金)	4時限	西村 理恵	治療学：輸血4	輸血の副作用について	無	対面	可
令和2年12月25日(金)☒	4時限		試験				
令和3年02月18日(木)☒	2時限		再試験				
授業形式・視覚機器の利用	講義を中心とする。						
評価方法	各講義終了時に小テスト、後期終了時の統一試験時に筆答試験を実施する。						

<p>教科書・参考文献</p>	<p>血液内科 Lee 他Wintrobe's Clinical Hematology、Lea &Febiger Williams 他Hematology、McGraw- Hill 内山卓、浅野茂隆、池田康夫 編集 血液病学、文光堂 金倉、鈴木、神田、木崎 編集 E B M 現代内科学、金芳堂 三輪、渡辺編集血液細胞アトラス、文光堂</p> <p>全国国立大学附属病院輸血部会議輸血医学カリキュラム委員会編集輸血医学金芳堂</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>21世紀の潮流は臓器移植から臓器再生医学の時代とされ、iPS細胞をめぐる話題が盛んにとりあげられている。血液・造血器疾患の治療法として既に確立されている造血幹細胞移植の本質は、「多能性」と「自己複製能」を兼ね備えた造血幹細胞の移植であり、造血幹細胞による造血系の臓器再生と捉えられる。一方で、遺伝子工学を応用した造血サイトカインは血液・造血器疾患の治療を飛躍させ、さらには分子生物学的アプローチを基にした分子標的薬がすでに臨床の場に多数登場し、飛躍的な治療成績をあげている。白血病や悪性リンパ腫はもはや「不治の病」ではなくなった。すなわち、血液・造血器疾患は時代の潮流の牽引者の役割を担ってきている。このような観点から、講義枠内に造血幹細胞移植療法・血液分子生物学をとりいれるとともに、特別講義では「造血幹細胞と再生医学—細胞療法」、「分子標的療法としての癌の免疫療法」をとりあげる予定としている。これを通じて、学生諸君の課題探求型取り組みへの意欲が高まることを期待する。</p>